

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域学校協働活動(学校支援活動)の取組事例

「学校・家庭・地域の連携による教育力の向上」(宮城県多賀城市)

取組の概要や経緯

地域で学校を支援する仕組みづくりを促進しながら、子供たちの健やかな成長を支援するとともに、地域住民の生涯学習や自己実現、住民同士の関わりを強化し、地域の教育力向上を図ることを目的としている。また、令和4年度から、地域学校協働本部を設置した。地域学校協働活動推進員を軸として、4つの中学校区において学校支援活動を展開している。学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制を整える。

内容

地域学校協働本部の4つの中学校区において、地域学校協働活動推進員を中心に、学校と地域との支援内容の検討や情報交換を行い、支援内容を決定していく。
協働教育だよりの発行やホームページにより、学校支援活動について、周知する。

ポイント

- ・地域学校協働活動推進員を中学校区ごとに複数人配置することで、学校からの多様なニーズに応えられるようにしている。
- ・地域学校協働本部等で、学校支援活動の事例を紹介することにより、学校と地域の連携・協働の継続を図った。また、地域の団体と緩やかなネットワークづくりができています。

成果

- ・地域学校協働活動推進員が、学校の状況を理解し、ニーズに対して、地域とのつなぎ役となることができたことで、学校・地域が一体となった教育の体制を推進することができた。また、子どもと教員だけでなく、ボランティアの満足度も高く、地域住民の自己実現につながられた。
- ・学校支援活動に保護者の参画を促すことにより、学校・地域・保護者の新たな関わりを創出することができた。

今後の方向性

- ・地域学校協働本部と学校運営協議会の双方が機能し、相乗効果を発揮することで、子どもたちを地域みんなで育てる活動の活性化を推進していくとともに、仕組みづくりを行っていく。



裁縫 授業支援



昔遊び 授業支援



調理実習 授業支援

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「地域づくりの手法としての地域学校協働活動」(宮城県大崎市)

取組の概要や経緯

幅広い住民や地域の多様な機関・団体等の参画のもと「地域学校協働活動」の推進を図り、地域全体で未来を担う子ども・青少年を支え、地域の活性化を図る。

内容

- 地域学校協働本部・・・類似組織含め、4つの本部(5小学校・3中学校)の活動を支援
- 学校支援活動・・・コーディネーター配置と保険加入により、安心して活動できる環境を整備
- 放課後子供教室・・・地域の力を生かし、3小学校区で実施
- 地域未来塾・・・家庭での学習習慣定着のため「サマースクール」「放課後学び支援」を開講



ポイント

- 【地域特性】地域の実情に応じた地域学校協働活動の展開
- 【地域の負担】既存団体を生かし、負担感が増大しないよう配慮
- 【地域づくり】地域づくりのひとつの手法として位置付け
- 【人材育成】「地域全体で子どもを育てる機運」とともに、「地域に育ててもらった感覚」を醸成

成果

- 地域学校協働本部の仕組みによる学校支援の拡大
- 地域コーディネーターの配置による新たな支援ニーズへの対応
- 地域未来塾参加者の家庭での学習時間の増加

今後の方向性

- 地域学校協働本部の継続支援と新規設立により、学校・家庭・地域・行政が連携した地域づくりを推進する。
- 学校支援ボランティアの間口を広げ、児童生徒との関わりが地域住民の生きがいとなるよう支援を継続する。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「富谷市地域・学校・家庭をつなぐ取組(学校支援活動)」(宮城県富谷市)

取組の概要や経緯

文部科学省の掲げる「学校を核とした地域づくり」を目指すため、地域の力が結集される各公民館に、地域学校協働本部を設置している。5つの協働本部で各地区の地域コーディネーターを中心に、学校教育の支援を地域の住民らと共に、各地区の特色あるテーマを掲げ、実施している。



内容

本市の地域学校協働本部は、富谷、富ヶ丘・日吉台、あけの平、東向陽台・明石台、成田の5つ設置し、地域ごとに5つのテーマをもとに、活動を展開している。富谷地区(富谷中央公民館)は、「富谷の伝承文化を大切にしよう」のテーマのもと、かつて宿場町として栄えた歴史と伝統のある「しんまち地区」をベースに、本市の歴史学習や伊達政宗公の時代より伝わる「富谷田植踊り」の体験学習を地域の方々と実施している。また、富ヶ丘・日吉台地区(富ヶ丘公民館)では、「私たちが生活する環境を大切にしよう」のテーマのもと、公園ピカピカ大作戦などで地域の公園の清掃活動を実施している。このほかにも、合唱指導や図書整備、作品展の実施など、テーマにとらわれず幅広い活動を行い、地域と学校を繋ぎながら、子どもたちの育成と地域コミュニティーの醸成に励んでいる。

ポイント

- ①地域からの信望の厚い地域学校協働活動推進員を各地区に数名配置。
- ②年に数回、学校の教員や地域関係者、行政区長らでつくる協議会を実施。
- ③学校ではなく、地域活動の中心である公民館に地域学校協働本部を設置。
- ④前例にとられない幅広い学校支援を行う。

成果

子どもたちにとっては、普段の授業だけではなく、地域の人たちを交えた授業や活動を行うことにより、子どもたちの授業への理解度や地域の方との交流を深めることができた。地域の人たちにとっては、地域での希薄化されつつある地域コミュニティーを構築することができ、これらの活動が地域の横のつながりをも醸成されていると思われる。

今後の方向性

- ①地域学校協働活動推進員や学校支援ボランティアへの研修会を行い、コーディネート能力などの向上を目指す。
- ②地域から学校への支援のほか、子どもたち主体で地域に還元する取組ができるよう考える。
- ③地域、学校、行政がそれぞれ主体的に活動に取り組める環境づくりを行っていく。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「地域学校協働活動(学校支援活動)」(宮城県蔵王町)

取組の概要や経緯

蔵王町の地域学校協働活動では「学校を核とした地域づくり」を目指すため、地域・家庭・学校が連携しながら事業を展開している。地域コーディネーターを中心に、8つの小中学校それぞれの実情に合った活動を多岐に渡り実施している。

内容

(1) 学習支援活動

町内の小中学校における学習支援(指導・補助)を行う。毛筆指導、蔵王町の歴史講話、地層の学習、田植え・稲刈りの学習など

(2) 校外活動支援

町内の小中学校における校外学習の支援(指導・補助)を行う。登山指導など

(3) キャリア教育

中学生が社会人との関わりを持つことで、将来の自分を深く考えるきっかけを作る。職場体験学習、マナー講座、キャリアセミナー

ポイント

2人のコーディネーターが町内8小中学校からの依頼を取りまとめ、ボランティアとのマッチング、連絡・調整を行うことで学校側の負担軽減を図っている。地域資源や人材を活用した体験式授業により、実のある学習や地域との繋がりを学ぶことができる。

成果

- ・コーディネーターによる連絡・調整でスムーズな学習継続が行われているため、学校側の満足度が高い。
- ・ボランティアが自分の知識や特技を活かせることで、活動に生きがいを感じている。
- ・ボランティアとの交流や地域資源の活用により子どもたちの郷土愛を高める。

今後の方向性

- ・コロナ禍において制限されていた活動の通常化、またコロナ禍を経て新たに創出される活動に対しての支援や配慮が必要になっていく。
- ・コミュニティスクールが発足したため、今後さらに連携を取りながら有意義な活動を発展させていく。
- ・幅広い活動を展開し、活動するボランティアの固定化を解消していきたい。



読み聞かせ活動



毛筆指導



キャリアセミナー

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域学校協働活動の取組事例

「柴田町協働教育推進事業 学校支援活動の取組事例」(宮城県柴田町)

取組の概要や経緯

学校の教育活動を地域が支援する体制を整備し、煩雑化した学校の業務を軽減し、教師の教育活動の時間確保と充実を図るとともに開かれた学校づくりを推進する。また、地域住民や企業の社会貢献を実現し、学習機会の提供や生きがい・やりがい作りの場を作り、地域の教育力の向上を目指す。

内容

- (1) 学校の要請に応じて「しばたっ子応援団」(学校支援ボランティア)の派遣
- (2) キャリア教育支援
- (3) 柴田町協働教育推進委員会(地域学校協働本部)の開催
- (4) しばたっ子応援団研修会の開催

ポイント

- (1) 「学校が必要としている支援」にコーディネーターが寄り添い、先生が児童・生徒を思う気持ちを最優先
- (2) キャリアセミナーは少人数で実施して生徒と社会人講師の距離をより近く
- (3) 町内全域で組織化し、学校間・地域間で様々な情報効果ができる
- (4) ボランティア同士のネットワークを構築し、「やりがい」の共有

成果

- ・先生が負担を感じず(99%)、先生が良いと思える(98%)活動をコーディネートできた。また、活動に関わったボランティアの95%がやりがいを感じる活動にすることができた。(学校支援ボランティア活動後のアンケートより)
- ・地域連携担当の先生からの相談からボランティアが関わる学校支援活動につながるが増えてきており、学校と地域をつなぐコーディネーターの活動が浸透してきている。



今後の方向性

町内小中学校の児童・生徒・先生のニーズに沿うようなしばたっ子応援団員を確保するために、新規入団者の募集や発掘を随時行っている。町内の住民や団体だけでなく、町内外の事業所等にもしばたっ子応援団に登録していただくことで、今後も継続的に地域学校協働活動を実施し、学習の機会を提供する。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金」(学校を核とした地域力強化プラン) (学校の働き方改革をふまえた学校支援活動)の取組事例

「キャリアセミナー」(宮城県亘理町)

取組の概要や経緯

地域を再生していくにあたり、自分たちの生き方やまちづくりについてしっかりと考えることのできる児童・生徒を育成することが大切である。

そこで、町内中学校の生徒に対し、様々な職業や立場で活躍している方の講話を聞くことができる場面を設定している。

生涯学習課主催となり、NPOへ委託し、学校の働き方改革をふまえた学校支援(キャリア教育支援)の一環として、平成24年度から継続して開催している。

働く意義、喜びや苦勞、夢を実現させるための過程で大切にすべきことなどを聴き、自分の生き方をしっかりと考える機会とすることを旨とした事業を行っている。

内容

- NPO法人ハーベストに、事前打合せ及び当日の運営を委託。
- 町内4つの中学校で実施。中学2年生対象(小規模校は1, 2年生)
- 学校規模及び要望等をふまえた講師選定をお願いして、生徒は希望の講師2人から1時間×2コマずつ受講してアンケート用紙記入。



ポイント

- ①学校の働き方改革をふまえた、キャリア教育支援の一環として、学校や生徒の要望も取り入れた柔軟な講師選定及び協力体制を構築し、生徒の学びを深める。
- ②様々な職業や立場の講師を選定により、生徒の興味・関心を引き出す。

成果

・将来の目標が決まっていない、大人になることや働くことイメージができていない生徒が多数。どのように生きていきたいか、また、将来の夢や職業をどのようにしていきたいかを考えることに対する意識の深まり高まりが感じられた。

・NPO法人ハーベスト及び講師の方々、学校が、事業の趣旨を理解し、自分たちの生き方についてしっかりと考えることのできる生徒の育成に対する協力体制が感じられる。

※校長先生の感想抜粋

生徒は普段、家族と教員しか接する大人がいない。身近にいる様々な職業をしている大人の生の体験談を聞いたことは大変有意義である。講師の先生方と一緒に教室へ戻ってくる生徒の様子を見て、ためになる充実したお話をいただいたと感じた。

今後の方向性

- ・現在、町内4校の中学校2年生対象で開催しており、職場体験も2年生で実施しているため、繋がりを意識した事業展開をしていくことも有効であると考えられる。
- ・講師の選定にあたって、まちづくりに関わる方に来てもらい、講話をいただくことでより、まちづくりに興味・関心を持ってもらうようにする。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

学校の働き方改革を踏まえた活動(学校支援活動)の取組事例

「町は学校」学校・家庭・地域が連携した教育活動(宮城県大和町)

取組の概要や経緯

各小中学校において、地域と学校による地域学校協働活動を行い、教育活動の充実を図るため、地域が一体となって子どもを育てる組織を設置している。

令和2年度から組織の名称が変更され、「地域学校協働本部」として、地域と学校が双方向に協力し合い、教育に携わっている。

内容

各地域学校協働本部により各学校における年間の活動を検討し、詳細を学校コーディネーターと地域コーディネーターが調整して実施している。また、上部組織である地域学校協働活動運営委員会では、コーディネーターやボランティア向けの研修会の企画と実施、広報誌の発行などを通して協働教育の普及啓発に努めている。

○吉岡、宮床、吉田、鶴巣、落合、大和中、宮床中学校区の各地域学校協働本部

・地域コーディネーターと学校コーディネーターが詳細を調整し、学校教育推進を行う

○地域学校協働活動運営委員会

・ボランティア研修会の企画、実施、広報誌の発行などの普及啓発活動

ポイント

- ①学校毎の活動記録写真等を用いた「協働教育カレンダー」「協働教育ニュース」を発行・配布することで、活動の様子を共有している。
- ②コーディネーターが各学校担当者と打合せを行い、活動をすすめている。
- ③地域ごとに地域学校協働本部を開催し、活動に関わる各地区団体の長が集まり話し合うことで、年間の活動の把握と支援体制を整えている。

成果

- ・地域の伝統を学習することで、伝統の継承に繋がっている。
- ・活動の中で、地域住民とのコミュニケーションの機会が多々あり、児童の豊かな人間性を育むための一助となっている。
- ・地域と学校の交流により、児童生徒の地域への愛着が深まった。
- ・地域の方々が地域コーディネーターやボランティアとして活動することにより地域のやりがい作りに繋がっている。

今後の方向性

- ・子どもを地域全体で育むために、各地区の特徴を活かした活動を支援する。
- ・地域間の人材不足や人数の格差の解消に向けて、地域を越えた活動についても促進する。
- ・統括的なコーディネーターの育成を図り、活動毎の連携を図る。



「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「地域資源や人材を生かした学習支援事業」(宮城県 大衡村)

取組の概要や経緯

子どもを地域全体で育むために、家庭・地域・学校を結ぶ仕組みを作り、学校教育の充実や子どもたちの健全育成、住民のやりがいや生きがいづくりを推進するため、ボランティアの募集や派遣を行った。

内容

・家庭科授業の補助(ミシンの使い方指導:小学校5・6年生対象)

ポイント

村内全世帯に「地域学校協働活動推進だより」とボランティア申込書を配布し、活動内容の周知を図っている。

成果

活動を通して地域ボランティアと児童の交流が図られ、地域住民のやりがいや意欲につながっている。また、親世代・祖父母世代のボランティアとの関わりは、3世代の交流を兼ねての取組となっている。



今後の方向性

昨年度までは新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止や学校行事との調整等により日数や人数を縮小していたが、今年度より学校の要望に合わせて事業を実施した。今後も学校にとって必要な内容を確認しながら事業を継続していきたいと考える。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「元氣わくやふれあい町づくり事業」～子供たちの学びを地域で支える (宮城県涌谷町)

取組の概要や経緯

平成22年9月に元氣わくやふれあい町づくりサポートセンターを立ち上げ、学校支援本部事業として開始した。

支援対象は町内全ての小中学校及び幼稚園等まで展開し、学校支援や放課後子ども教室を地域住民と協働し推進している。

平成28年4月から評価検証委員会を立ち上げ、各事業の課題や効果の測定、事業の評価・検証を行っている。

内容

学校支援活動では、学校の要請により、学校の環境整備や授業支援等を行っている。元氣わくやふれあい町づくりコーディネーターが、学校と地域ボランティアを繋ぎ調整を行い活動を行っている。

放課後子ども教室では、各小学校において、放課後子ども教室のコーディネーターが中心となり、地域性や学校の特性に合わせた事業を企画し、地域の中から講師を依頼するなど地域人材を積極的に活用し様々な体験学習の機会を提供している。

ポイント

- ①元氣わくやふれあい町づくりコーディネーターが各学校と密にコミュニケーションをとり、支援内容や支援者の検討を行い速やかに調整し支援している。
- ②放課後子ども教室は、各小学校の地域性や特性を活かした体験型の事業内容を企画。また、地域人材を積極的に活用することで地域との連携・協働の推進と地域コミュニティの活性化を図る。
- ③町内小中学校を訪問し、各種事業の説明を行い事業の理解、活用、情報の共有を図る。

成果

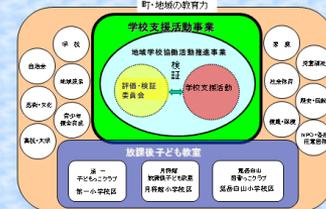
学校支援事業においては、学校からの要請により、環境整備(トイレ掃除の指導・図書整理等)や授業支援(バケツ稲、調理実習・ミシン・書初め等)、児童の見守り(PTA総会時などの見守り)、読み聞かせなどさまざまなボランティア支援が行われた。

また、授業支援では、地域のボランティアが支援することで、児童一人一人にサポートすることができた。地域の方々が活動することで、地域と学校の自然な交流が推進され、また、居住地の小学校でボランティア活動をすることにより、地域コミュニティの活性化も図ることができた。

放課後子ども教室では、コロナによる制限がなくなったことで学校や地域の行事が増えたこともあり、開催回数は増やさず企画した。参加児童はたいへん楽しみにしており、地域のスタッフとの交流とともに、地域の中から講師を依頼し、絵手紙教室や創作教室、ニュースポーツ、高校書道部による書道教室等を体験することで、多世代の交流や地域住民との交流を深めることができており、支援しているスタッフや、ボランティアなど地域住民の活動の場づくりや生きがいがいづくりに大いに役立っている。

元氣わくやふれあい町づくり事業

～子どもたちの学びを地域で支える～



今後の方向性

- ・学校支援活動においては、学校と地域住民が気軽に交流を図れる場を設け、スムーズな支援を学校と連携し行う。
- ・放課後子ども教室においては、地域の人材から講師を招き、地域に根ざした体験活動を行う。
- ・支援者となる地域人材の育成、発掘に努め、また保護者にも参加を促し、協働教育の推進を図る。
- ・『できる支援をできるときに、できることから』を合言葉に地域住民の協力をもらいながら、よりよい協働教育の推進を図る。